

## 1 受賞団体・個人の名称

いずみ せいいち

泉 精一（愛媛県松山市）



（問い合わせ先）

愛媛県中予地方局産業振興課地域農業室  
TEL 089-909-8762

（経歴）

昭和50年からみかんの有機栽培の取組みを開始。  
循環型農業や土着微生物を利用した技術など創意工夫を重ねる。

（受賞時の経営内容）レモン20a、温州みかん10a、野菜20a、  
採卵鶏800羽

## 2 生産面の取組

①山林などから採取した土着微生物に黒砂糖や米糠などをあわせて発酵させた資材や新芽・幼果等を黒砂糖で発酵させた発酵液を液肥や土壌改良材として活用している。



②自家採卵鶏は平飼いで飼養しており、餌は全て近隣で得られるものを自家配合している。この発酵鶏糞を果樹や野菜に施用している。



③ショウガは、ライ麦を畝間に作付けし、土壌改良、除草、敷き草がわりに活用し、土着微生物とあわせて連作障害対策を研究している。

④有機栽培柑橘のほかに、野菜は鳥獣害の少ないもの、自家採種ができるもの、作りやすいものを中心に選定しており、現在はショウガ、ゴマ等を栽培している。

## 3 経営面の取組

①発酵資材の材料は、摘果果実、海草、雑草の新芽などを活用し、採卵鶏の餌も魚粉やおから、くず米など食品残さを中心とした自家配合で生産費を軽減している。

②有機栽培の生産者仲間で「中島ゆうきの里」をつくり共同出荷を行っている。現在も後進のために新たな販売先を開拓している。



③温州みかん、レモンは生果で販売するほか、ジュース、レモン果汁などの加工品にも取り組んでいる。

## 4 取組の成果

①経営は全体で600万円を越える売り上げがあり、内訳は果樹・野菜部門と卵部門で半々となっている。

②柑橘専作の大規模農家が多い地域で、経営的には50a程度の小規模でありながら、「有機柑橘・野菜+畜産」の小規模有機農畜複合経営で家計を立てるモデルを提示している。

③当地区を中心に有機栽培に取り組む農家が徐々に増えてきている。

## 5 地域社会への貢献

①当地区を中心に有機農業を始める農家が増えてきたことから、「中島有機農業研究会」を設立し、有機農業の技術普及や有機農業講座の開催、視察の受け入れなども取り組んでいる。



②収穫体験、海辺の生き物調査など、年数回、消費者との交流を行っており、子供が農業や食について学べる場となっている。

③インターンシップの大学生を受け入れ、農作業を通じた食農教育や海外研修生の受け入れを行っている。